2020 年度入学者選抜方法の妥当性の検証

2021 年 6 月

山梨学院大学　学習・教育開発センター

1.　検証の目的

2020 年度の入学者選抜試験の妥当性を検証するために、選抜区分間で入学後の学修成果に差がないか、1 年次終了時点の GPA と PROG テストの結果を用いてクロス分析を行った。

2.　結果の概要

選抜区分ごとの学修成果をクロス分析した結果、次のことが分かった。

- 1 年次終了時点の GPA は選抜区分間で統計的に有意な差がみられた。
- PROG リテラシーは選抜区分間で統計的に有意な差がみられた。
- PROG コンピテンシーは選抜区分間で統計的な差がみられた。

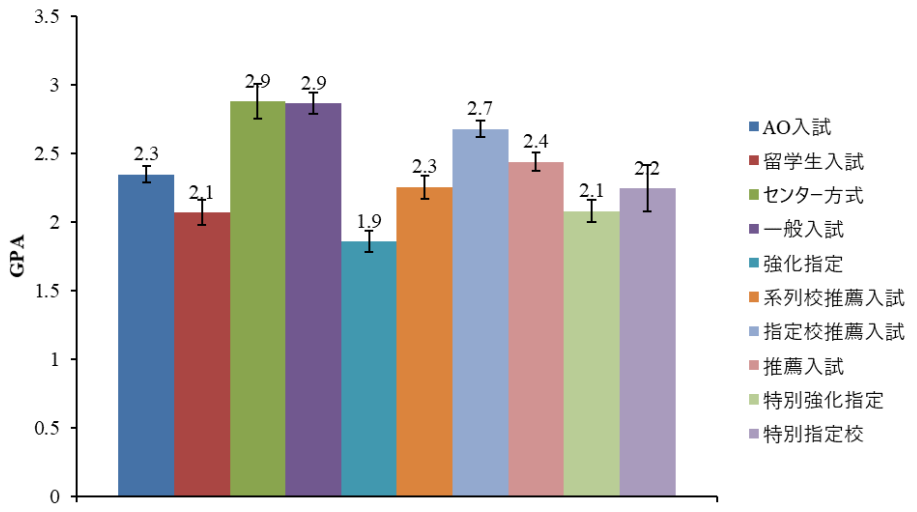
3.　選抜試験区分ごとの入学者数

各学科の選抜者試験区分ごとの入学者数は次の通りである（各入試区分において、試験の実施時期や種別等が複数ある）。なお、妥当性の検証は、全学科の入学者数を合計して行った。

	学科名					
入学者数	法学科	経営学科	国際リベラルアーツ学科	スポーツ科学科	管理栄養学科	合計
AO入試	32	13	5	106	0	156
センター方式	27	5	3	4	0	39
一般入試	50	27	2	17	10	106
強化指定	70	22	0	0	0	92
系列校推薦入試	30	51	0	0	0	81
指定校推薦入試	77	77	0	0	4	158
推薦入試	18	9	3	83	20	133
特別強化指定	57	27	0	0	0	84
特別指定校	14	7	0	0	0	21
留学生入試	14	79	34	0	0	127
TOEFL入試	0	0	2	0	0	2
その他	0	0	2	0	0	2
合計	389	317	51	210	34	1001

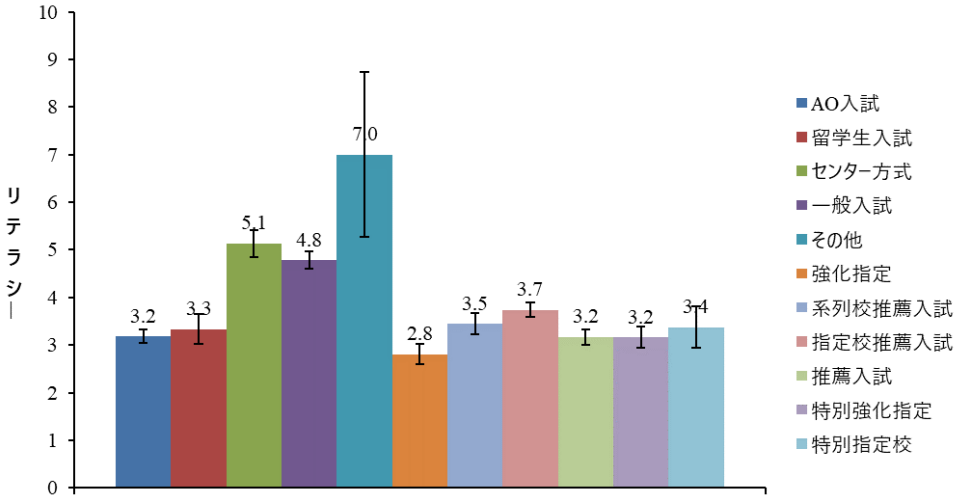
4.　1 年次終了時点の GPA

1 年次終了時点の GPA の平均値を選抜区分ごとに示した（エラーバーは標準偏差）。GPA を従属変数、選抜区分を独立変数とする一要因分散分析を行ったところ、主効果は有意だった（$F(9, 917)=16.803$, $p<.000$, $\eta 2p=.142[.096, .175]$）。このことから、選抜区分によって GPA の平均値に差があることが示唆される。なお、入学者が少ない選抜区分と 9 月入学者は水準の効果を統計的に評価できないため、分析から除外した。

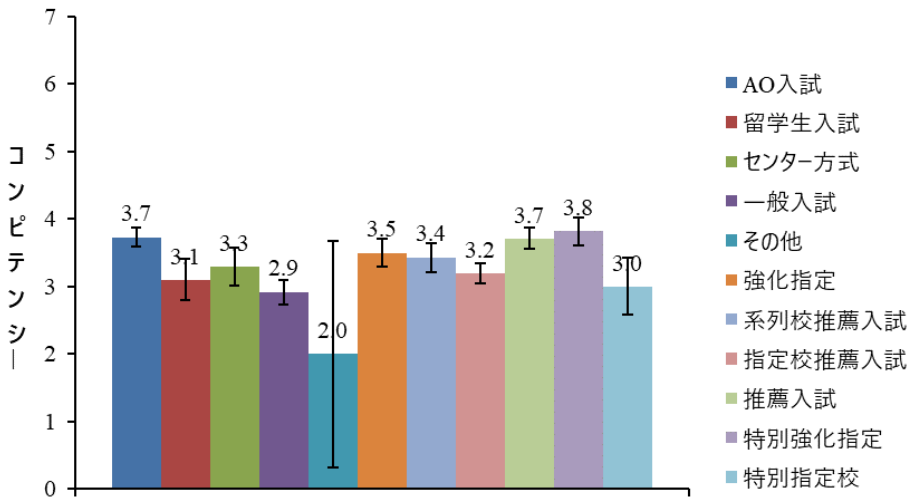


5. PROG テスト

PROG テスト・リテラシーの平均値を選抜区分ごとに示した（エラーバーは標準偏差）。リテラシーのスコアを従属変数、選抜区分を独立変数とする一要因分散分析を行ったところ主効果は有意だった（$F(10, 742) = 10.906$, $p < .000$, $\eta^2_p = .128$ [.077, .162]）。このことから、選抜区分によってスコアの平均値に差があることが示唆される。



PROG テスト・コンピテンシーの平均値を選抜区分ごとに示した（エラーバーは標準偏差）。コンピテンシーのスコアを従属変数、入試区分（大分類）を独立変数とする一要因分散分析を行ったところ主効果は有意だった（$F(10, 742) = 2.506$, $p < .000$, $\eta^2_p = .033$ [.003, .048]）。このことから、選抜区分によってコンピテンシーの平均値に差があることが示唆される。


コンピテンシー
7
6
5
4
3
2
1
0
3.7
3.1
3.3
2.9
2.0
3.5
3.4
3.2
3.7
3.8
3.0
AO入試
留学生入試
センター方式
一般入試
その他
強化指定
系列校推薦入試
指定校推薦入試
推薦入試
特別強化指定
特別指定校